Google 日本語 に翻訳されました 原文を表示 オプション ▼

波新聞 Bonews

日本の新潟明訓高等学校が永慶高等学校を訪問し、パールミルクティーとチキンステーキの組み合わせで友好の架け橋を築きました。

ソース: Wave News | 日付: 2024-04-01 16:09:29 | 再生回数: 3626

%B5%84%E5%90%88%E6%90%AD%E8%B5%B7%E5%8F%8B%E8%AA%BC%E7%9A%84%E6%A9%8B%E6%A8%91-

Wave News—Gu Shisheng/嘉義

日本新潟県国際交流協会は3月26日、新潟明訓高等学校と新潟市立臼井中学校の教職員計11名を引率して嘉義県立永慶高等学校へ国際交流活動に参加しました。永慶市青少年大使グループは、パールミルクティーとチキンステーキの組み合わせで双方の友好の架け橋を築いた。

新潟県国際交流協会常務理事・事務局長の村山雅彦氏は次のように話しました。国際交流についての研究にも熱心に取り組んでいただき、私も学習意欲が非常に高く、豊かな交流と学習の機会を提供してくださった嘉義県永慶高等学校に感謝しています。

日本の新潟県からの訪問に同行した呉鳳科技大学応用日本語学科の徐毓瑩教授は次のように述べた。「永慶高校青少年大使グループとオーケストラの生徒たちに仙台、南に同行できてとてもうれしかったです。」昨年5月には三陸と国内各地で国際教育交流活動を実施。当時の交流活動で永慶高校の交換留学生の熱意と真

剣さを見て、当時新潟県が台湾に交換学校を手配していたので、永慶高校を推薦しました。当日は、期待に応え、訪問教師と生徒たちに会場の熱気と活力を十分に体験していただいた永慶高校に感謝いたします。

郭春松総統は、「永慶市青少年大使たちは今回の交流イベントの企画・手配を担当した。彼らは開会式やキャンパスツアーの手配方法を知っていただけでなく、タピオカミルクティーの製造も綿密に計画し、台湾の宣伝を十分に把握していた」と述べた。地元の食文化。郭春松校長は、本校は国際教育の推進に力を入れており、学生代表グループの中に特別に永慶市青少年大使グループを設立し、ゲストの接待や国際交流業務を担当していると述べた。中学校ではオンライン交流を実施し、中学校ではCrazy Readingの改訂カリキュラムを活用し、外国人教師のリソースを組み合わせて、中学校の生徒に生き生きとした授業を提供します。興味深い外国人教師コースもあります。永慶高等学校では、過去2年間で日本、アメリカ、ウガンダ、ベトナム、パキスタンを含む5か国16校とオンライン交流を通じた数十回のオンライン交流活動を実施してきており、永慶市の生徒の皆さんのお出かけを楽しみにしています。世界の別の側面を見ることができます。

新潟県訪問の総合主催者であり、永慶市青少年大使グループのコンサルタントでもある王白友氏は、イベントの企画段階で、両国間に架け橋を築くために「食」を使うことを期待していたと語った。中でも思い浮かぶのはタピオカミルクティーとチキンステーキの組み合わせ。ただし、独自のタピオカミルクティーを作るには、製造プロセスを注意深く研究する必要があります。プロセス中、チームメンバーとインストラクターの継続的な研究とすべてのリンクの慎重な配置を通じて、生産プロセスは完璧なSOPプロセスを持つことができ、コミュニケーションプロセスがコミュニケーションのエチケットと思慮深さを満たせるようになります。

王白友氏はさらに、この過程でチームのリーダーシップやイベント企画のプロセスを学んだだけでなく、両校の交流で考慮すべき繊細さや国際的なマナーをさらに理解し、自身もそれを得ることができたと説明した。多く。

写真：日本の新潟明**訓**高校が永慶高校を訪問